【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和5年6月21日(2023.6.21)

【公開番号】特開2022-130219(P2022-130219A)
【公開日】令和4年9月6日(2022.9.6)
【年通号数】公開公報(特許)2022-164
【出願番号】特願2021-29283(P2021-29283)
【国際特許分類】
*Ｇ０１Ｇ 21/30(2006.01)*
*Ｇ０１Ｇ 7/02(2006.01)*
*Ｇ０１Ｇ 3/12(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｇ 21/30
Ｇ０１Ｇ 7/02
Ｇ０１Ｇ 3/12

【手続補正書】
【提出日】令和5年6月13日(2023.6.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項４】
請求項１～３のいずれかに記載の電子天びんにおいて、
前記仕切板が、試料出し入れ用の開口を有する、電子天びん。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２２】
スライダ部４４０は、仕切板ユニット４０を柱部材３０に装着するための部分であり、支持部４３０の後端部に立設された、柱部材３０とほぼ同じ幅の第１板部４４１と、該第１板部４４１の左右両端から後方に延伸する一対の第２板部４４２とを有する、平面視略Ｕ字形状の部材から成る。Ｕ字形状の内側面となる第１板部４４１と第２板部４４２の側面には、それぞれ中ガイドピン４４４と外ガイドピン４４３が設けられている。スライダ部４４０が柱部材３０に装着されたとき、中ガイドピン４４４は柱部材３０の中央ガイド溝３４に挿入され、外ガイドピン４４３は、柱部材３０の側面ガイド溝３３に挿入される。外ガイドピン４４３及び中ガイドピン４４４は、それぞれ側面ガイド溝３３及び中央ガイド溝３４の幅よりも僅かに小さい直径（少なくとも溝の幅の９０％以上、望ましくは９９％以上）の円柱状のピンであり、それぞれ上下に並んで２本ずつ設けられている。また、スライダ部４４０の前面の左右の角部には、第１板部４４１における左右方向、第２板部４４２における前後方向に伸びる長孔４４５が設けられている。この長孔４４５は、後述する操作部４５０に設けられた可動ピン４５５の移動を許容する形状及び大きさを有する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２３

【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２３】
操作部４５０は、平面視長方形状の環状部４５１と、該環状部４５１の長手方向両側部の後端部に設けられた一対の摺接部４５２を有する。環状部４５１はスライダ部４４０の第１板部４４１と略同じ幅を有しており、該環状部４５１がホルダ部４２の支持部４３０上に載置されたとき、一対の摺接部４５２はスライダ部４４０を左右両側から挟むような形状に構成されている。摺接部４５２には、スライダ部４４０に設けられた長孔４４５に挿入可能な円柱状の可動ピン４５５（図７及び図８参照）が設けられている。この可動ピン４５５は、本発明における移動位置決め係合部に相当する。環状部４５１の前端面の左右部には、それぞれ円筒部４５３が設けられており、これら円筒部４５３には付勢部材である圧縮コイルばね４５４（図８参照）が挿入されている。圧縮コイルばね４５４は、無負荷時では先端が円筒部４５３から突出する長さ（自由高さ）のものが用いられている。なお、付勢部材はゴム等の弾性材であってもよい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
固定カバー４７は、操作部４５０全体を覆う矩形環状のハンドル４７１と、該ハンドル４７１の左右側面の後部から左右方向に延伸する一対の支持枠４７２とを有する。ハンドル４７１の左前の角部及び右前の角部の下面の、支持部４３０の孔部４３１に対応する箇所には、雌ネジ穴（図示せず）が形成されている。ホルダ部４２の支持部４３０の上に、孔部４３１と貫通孔４１１が合致するように仕切板４１を載せ、さらに、操作部４５０の摺接部４５２にスライド部４４０を挟ませた状態で環状部４５１を仕切板４１の上に載せ、操作部４５０にカバー部材４７のハンドル４７１を被せる。そして、支持部４３０の孔部４３１、仕切板４１の貫通孔４１１に、支持部４３０の下側からネジ４３２を挿通し、ハンドル４７１の雌ネジ穴に該ネジ４３２を螺合させる。これにより、ホルダ部４２の支持部４３０とカバー部材４７のハンドル４７１との間に仕切板４１及び操作部４５０が挟持された状態で支持部４３０とハンドル４７１が固定され、仕切板ユニット４０が構成される。このとき、カバー部材４７の支持枠４７２は仕切板４１の後辺に沿うように配置される。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
上記実施例では、固定位置決め係合部を複数の係合凹部３２、移動位置決め係合部を可動ピン４５５としたが、固定位置決め係合部と移動位置決め係合部の凹凸形状は逆でもよく、別の形状でもよい。また、固定位置決め係合部と移動位置決め係合部の係合は、凹部と凸部の係合の他、摩擦力を利用した係合や磁気的な係合でもよい。摩擦係合や磁気的係合の場合は上記実施例のように複数の係合凹部を設けなくても実現可能である。さらにまた、側面ガイド溝３３、中央ガイド溝３４、外ガイドピン４４３、中ガイドピン４４４の関係についても、互いに係合し合う形状であれば、上記実施例に限定されない。